

# 2019年度 第2四半期決算説明会

---

株式会社IMAGICA GROUP

証券コード：6879

2019年11月12日

**IMAGICA**  
GROUP

## I 2019年度第2四半期決算概要

## II 新中期経営戦略の進捗状況

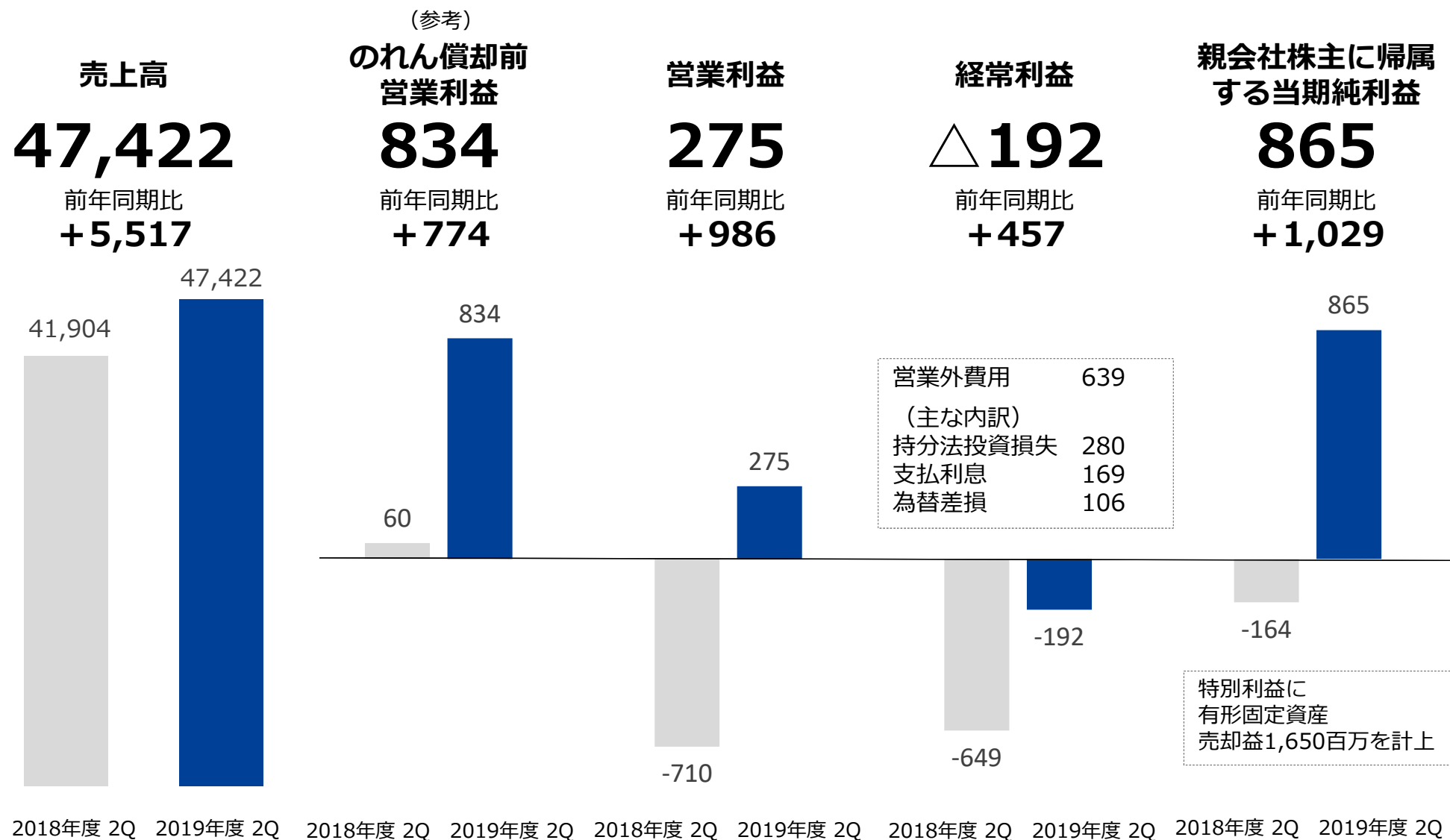
※当資料での年度表記は右記のように記載。 例：2020年3月期 ⇒ 2019年度

# I 2019年度第2四半期決算概要

# 第2四半期連結決算ハイライト

## 売上高55億増収、営業利益は9.8億増益で黒字化

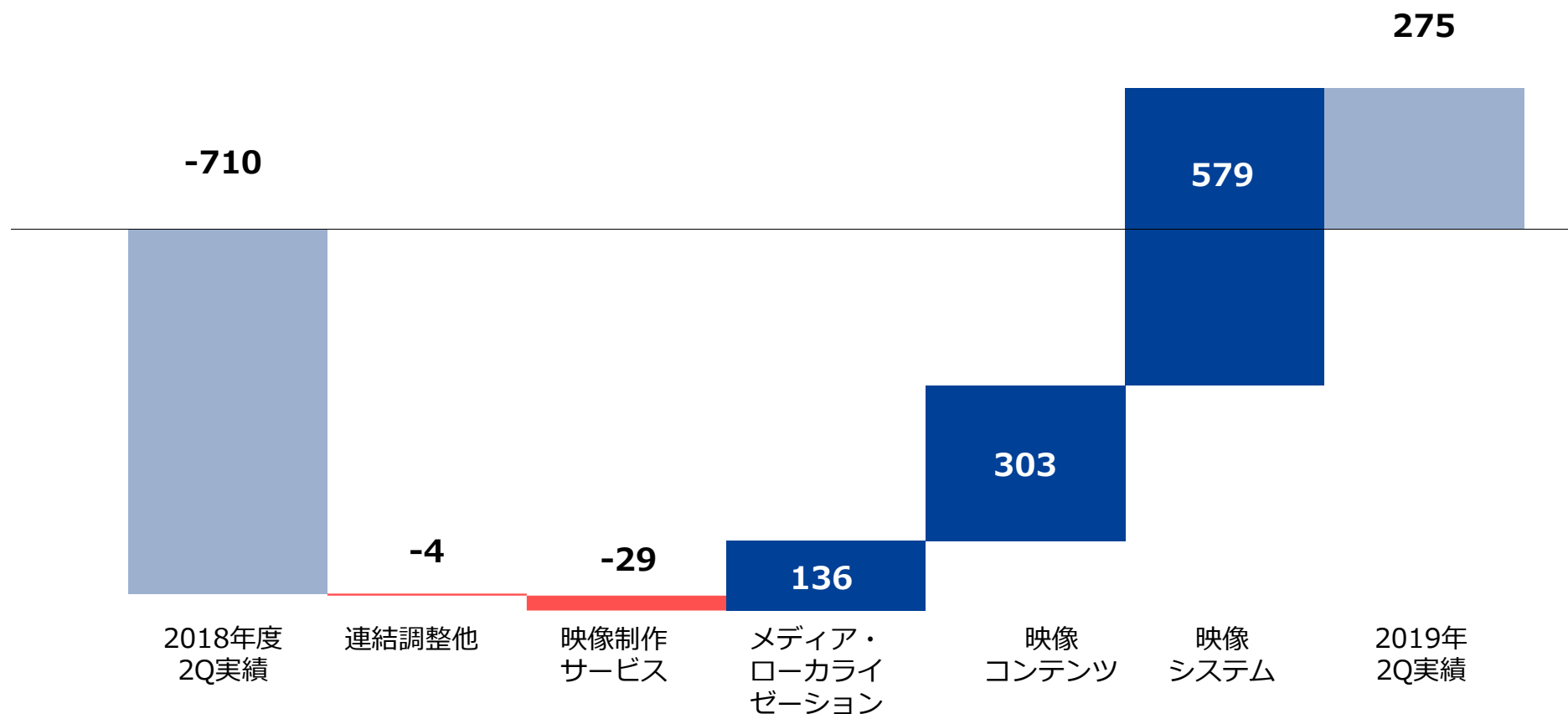
(単位：百万円)



# 第2四半期営業利益 前年増減要因

## 3セグメントで増益達成、映像システムは前年比5.8億円増益

(単位：百万円)



## 映像コンテンツ事業

- ✓ 劇場映画の制作規模拡大、作品数増加。またCM制作、音楽ライブ収録が順調
- ✓ のれんの一時償却による償却負担減、アニメ制作コスト低減

## 映像制作サービス事業

- ✓ デジタルシネマ順調、TVアニメ向けポストプロも堅調
- ✓ 子会社売却やデジタルコンテンツ事業拡充への投資等により、人材サービス分野は減収減益

## メディア・ローライゼーション事業

- ✓ 欧州地域のテレビ番組向けローライズ不調
- ✓ 粗利益率が前年比2.0%改善（7-9月の前年比比較）

## 映像システム事業

- ✓ 映像システム分野での大型案件が第2四半期に納品完了
- ✓ 欧米におけるハイスピードカメラ新製品の販売好調

## 放送局向けの大型案件獲得、欧米でのハイスピードカメラ新製品販売が好調

### 放送映像システム事業

#### 放送局向け大型案件獲得

- ▶ 大型編集システム入替を受注
- ▶ 7-9月売上高は前年比約2倍
- ▶ システム入替と同時に保守も獲得
- ▶ 今後はクラウドプラットフォームを視野に入れた展開



大型編集システム

### イメージング事業 (ハイスピードカメラ)

#### 欧米での新製品販売好調

- ▶ 新製品3機種を日米欧で本格販売
- ▶ 欧州での自動車衝突実験向け大型案件が成立→新機種が高評価
- ▶ 今後も自動車衝突実験向けに新製品の拡大販売を継続

衝突実験用新機種  
FASTCAM MH6



最大6台の超小型カメラを搭載

### CMオンライン送稿 「HARBOR」

#### 「HARBOR」ユーザー拡大

- ▶ IMAGICA Lab.と共同でCMオンライン送稿システムを開発
- ▶ 放送局や広告主に営業攻勢をかけユーザーが拡大中
- ▶ 業界スタンダード確立のため、継続的なユーザー獲得を目指す

HARBOR  
構成イメージ図



## ビジネスモデルの転換と事業領域の拡大

### 放送映像システム事業

#### 2014年以前

放送編集機材を単品で輸入販売

#### ビジネスモデル転換

#### 2014年以降

- ✓ 放送編集システム全体の設計から導入、保守までを請け負う
- ✓ 中大型案件を継続して受注し、年間約20億円の保守も担当

### イメージング事業（ハイスピードカメラ）

#### 2012年以前

汎用向けハイスピードカメラの販売  
(大学や官公庁、企業研究部門向け)

#### 事業領域拡大

#### 2012年以降

- ✓ 自動車やFA（生産自動化）、光学計測向けソリューションに特化したハイスピードカメラを開発して販売
- ✓ 中国など海外拠点を拡張



## 下期の業績も堅調を見込む

### 映像コンテンツ事業

CM制作と音楽ライブ収録が継続して堅調、通期では 増収増益を見込む

### 映像制作サービス事業

映像流通分野での好調が続くが、人材サービス分野での子会社売却や投資影響が下期も継続し、通期では 増収減益 を見込む

### メディア・ローライゼーション事業

4Qから新しい映像配信プラットフォームの受注を見込むが、主にTV番組向けのローカライズは低調に推移。固定費改善は継続し、通期では減収増益見込み

### 映像システム事業

映像システム分野の大型案件は下期も予定、ハイスピードカメラの販売好調も継続し、通期で 増収増益 を見込む

# 2019年度 通期連結業績予想

## 期初予想に変更なし

(百万円)	2017年度	2018年度	2019年度		
	実績	実績	予想 (5/14付)	前年増減額	前年増減比
売上高	91,351	90,212	95,000	4,788	5.3%
のれん調整前営業利益 (のれん調整前営業利益率)	3,878 (4.2%)	2,469 (2.7%)	2,810 (3.0%)	341	13.8%
営業利益 (営業利益率)	2,424 (2.7%)	926 (1.0%)	1,680 (1.8%)	754	81.4%
経常利益	2,424	789	1,200	411	52.1%
親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失	2,937	△2,010	1,800	3,810	—
1株当たり当期純利益又は純損失 (円)	65.98	△45.55	40.86	86.41	—

## Ⅱ 新中期経営戦略の進捗状況

## 2021年度に向けた新中期経営戦略『総合力2021』を策定

5つの基本戦略によりグループの構造改革を加速し、  
バランスのとれた事業ポートフォリオを構築

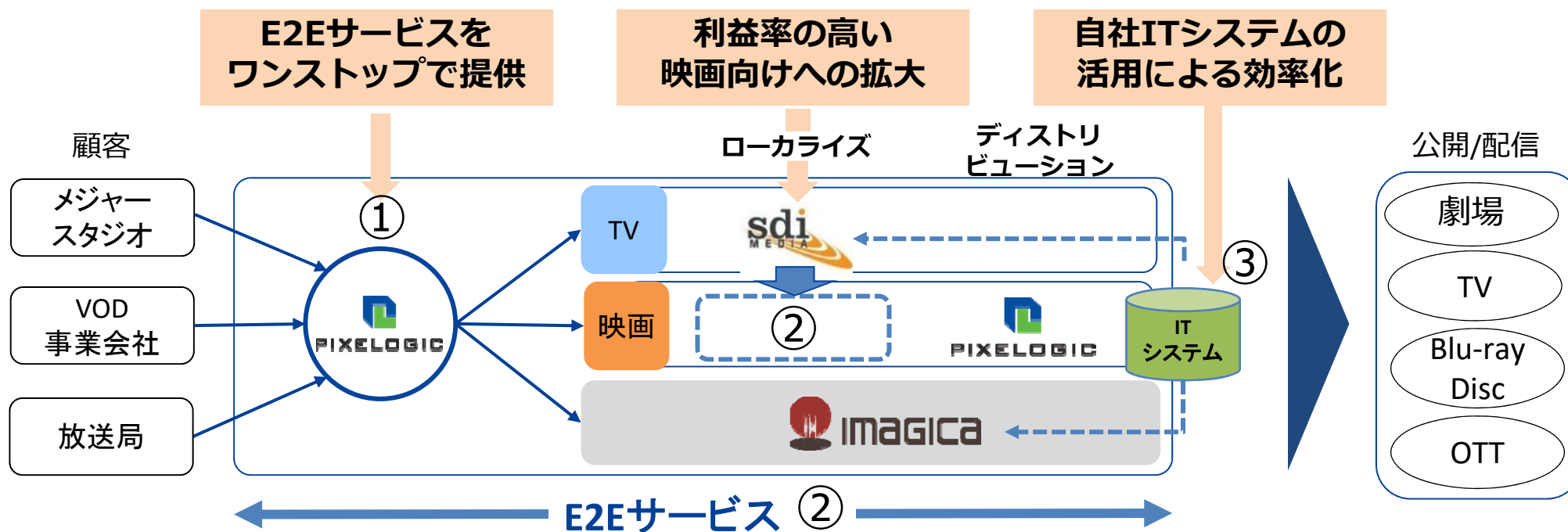
### 基本戦略

1. 新たなグローバル戦略の構築
2. 既存事業の収益力向上
3. 新たなビジネスモデルへの転換
4. 新規事業の創出と展開
5. 人材育成と働き方改革の推進

成長と収益性を伴った  
事業ポートフォリオ

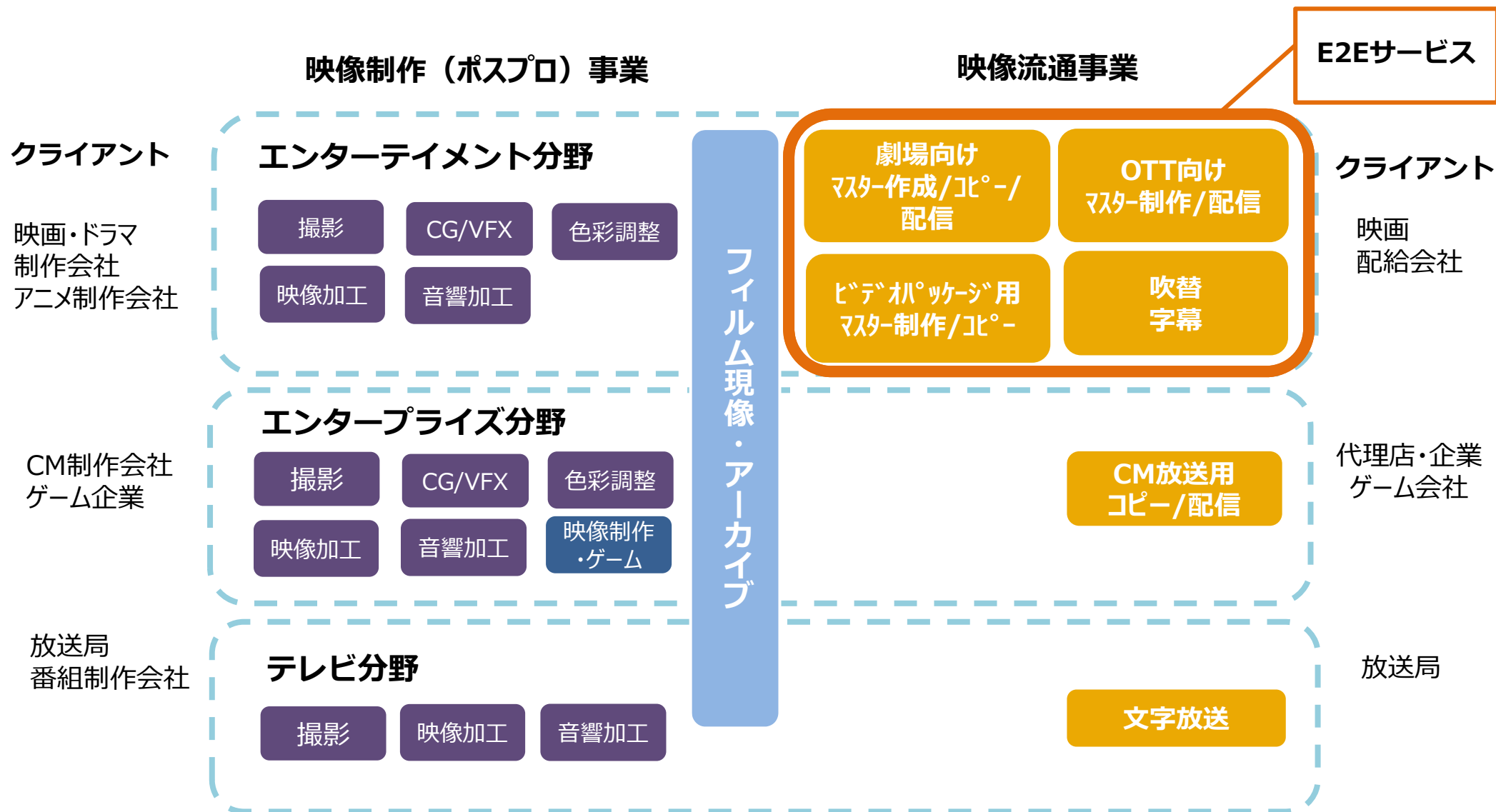
## Pixelogicへ出資・業務提携 ⇒ グローバル End to End(E2E)サービスを展開

- ① 顧客とのグローバルワンストップ体制の確立 売上拡大
- ② 業務領域を拡大・シフト 収益力向上
- ③ オペレーション効率の向上 生産性向上

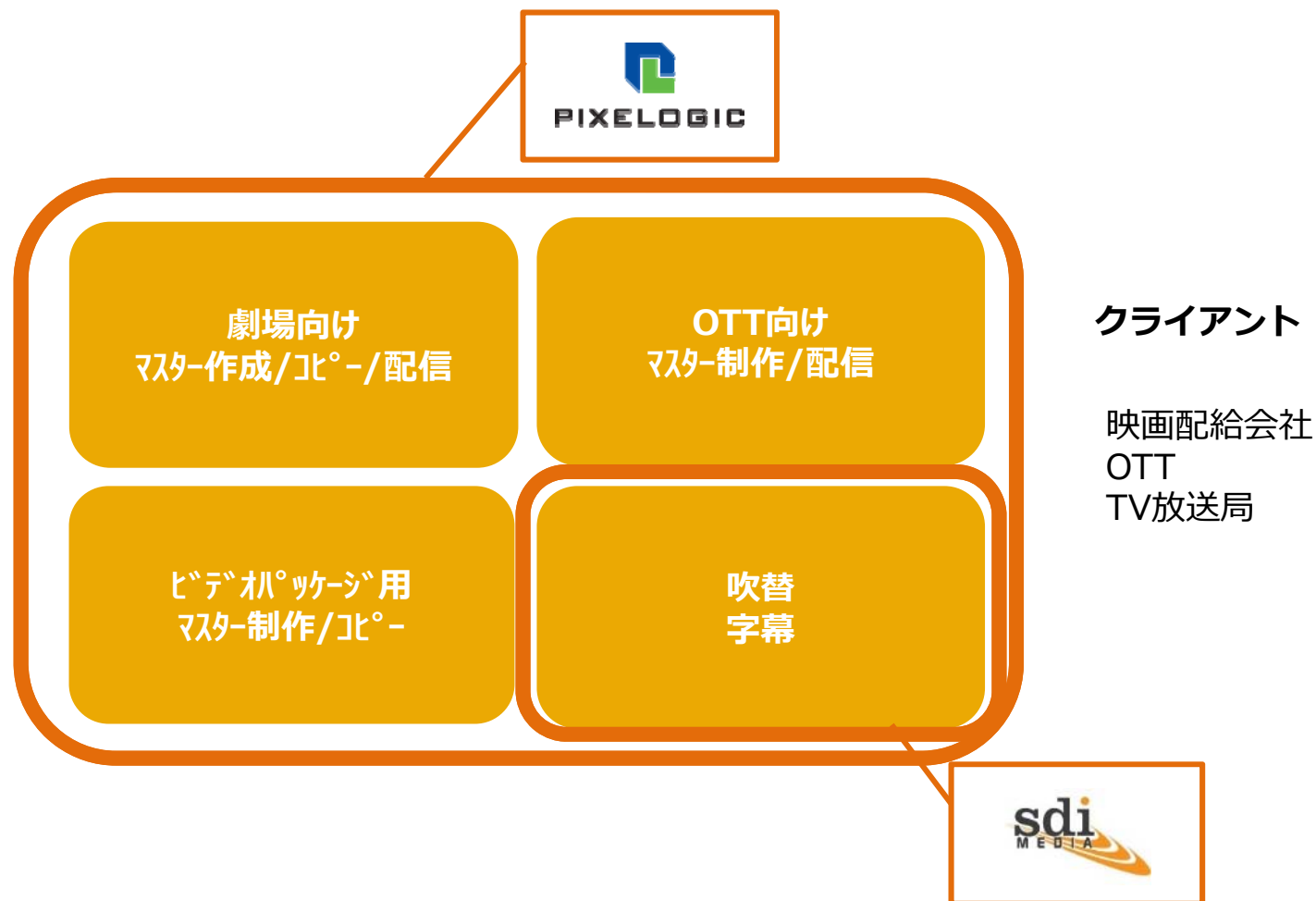


※End to Endサービス：劇場映画作品などのオリジナル作品完成後に提供するローカライズ(字幕・吹替)とディストリビューションを統合したサービス  
 ディストリビューション：公開/配信先に合わせたデータ作成、検査・発送業務

日本国内にてE2Eサービスを含むあらゆる映像制作工程をカバー



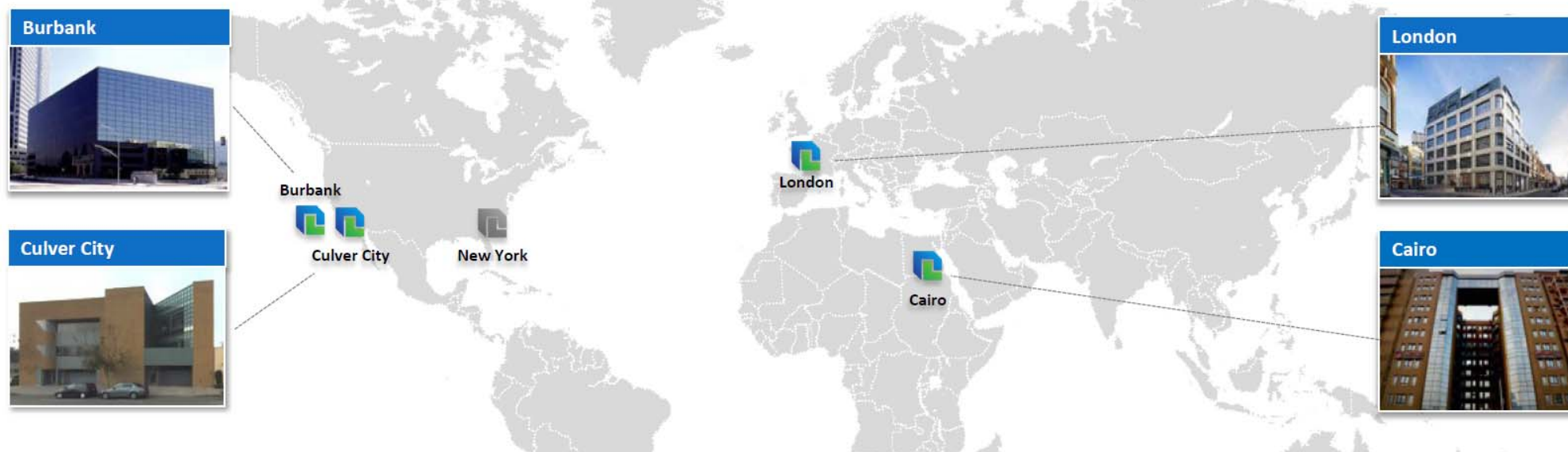
## グローバルにE2Eサービスをカバー



# Pixelogic会社概要

会社名	Pixelogic Holdings, LLC
設立	2016年7月19日
創業者	共同CEO : John Suh / 共同CEO : Robert Seidel
拠点	ロサンゼルス（本社）、ロンドン、カイロ
従業員数	約500名
売上高	41,540千ドル（約4,569百万円） * 2017年度実績

\*1ドル=110円換算





## 3つのポイント

### 創業者

#### 幅広い人脈

共同CEO John Suh 共同CEO Rob Seidel  
2名とも映像制作サービス業界で25年以上の経験があり、  
ハリウッドメジャースタジオ や TV放送局 と幅広い人脈を持つ

### ワンストップ サービス

#### E2Eサービスをワンストップで提供

ローカライズとディストリビューションのサービスをワンストップで提供  
することで、クライアントから求められるスピードに対応

### プラット フォーム

#### E2Eサービスを実現する最先端のプラットフォーム

80名以上のエンジニアが所属。  
自社開発した映像制作ワークフローの管理システムにより、スピード、  
大量、高品質、安全なサービスを実現

## 新しい映像配信プラットフォームの出現

既存プラットフォーム（例）

新しい映像配信プラットフォーム



- ✓ 劇場映画やTV局以外で制作されるオリジナル作品が増加
- ✓ 作品を展開するプラットフォームが増加

**E2Eサービスの需要が拡大**

2019年度下期は受注が拡大して、売上高が増加する見込み

新しい映像配信プラットフォーム  
の出現

+

SDIとの共同営業活動

2019年度下期から受注量が拡大

## Pixelologicの顧客網とITシステムを活用、3社一体となり グローバルE2Eサービスを拡大



## M&Aによる新規事業創出の資金調達を目的とした新株予約権を発行

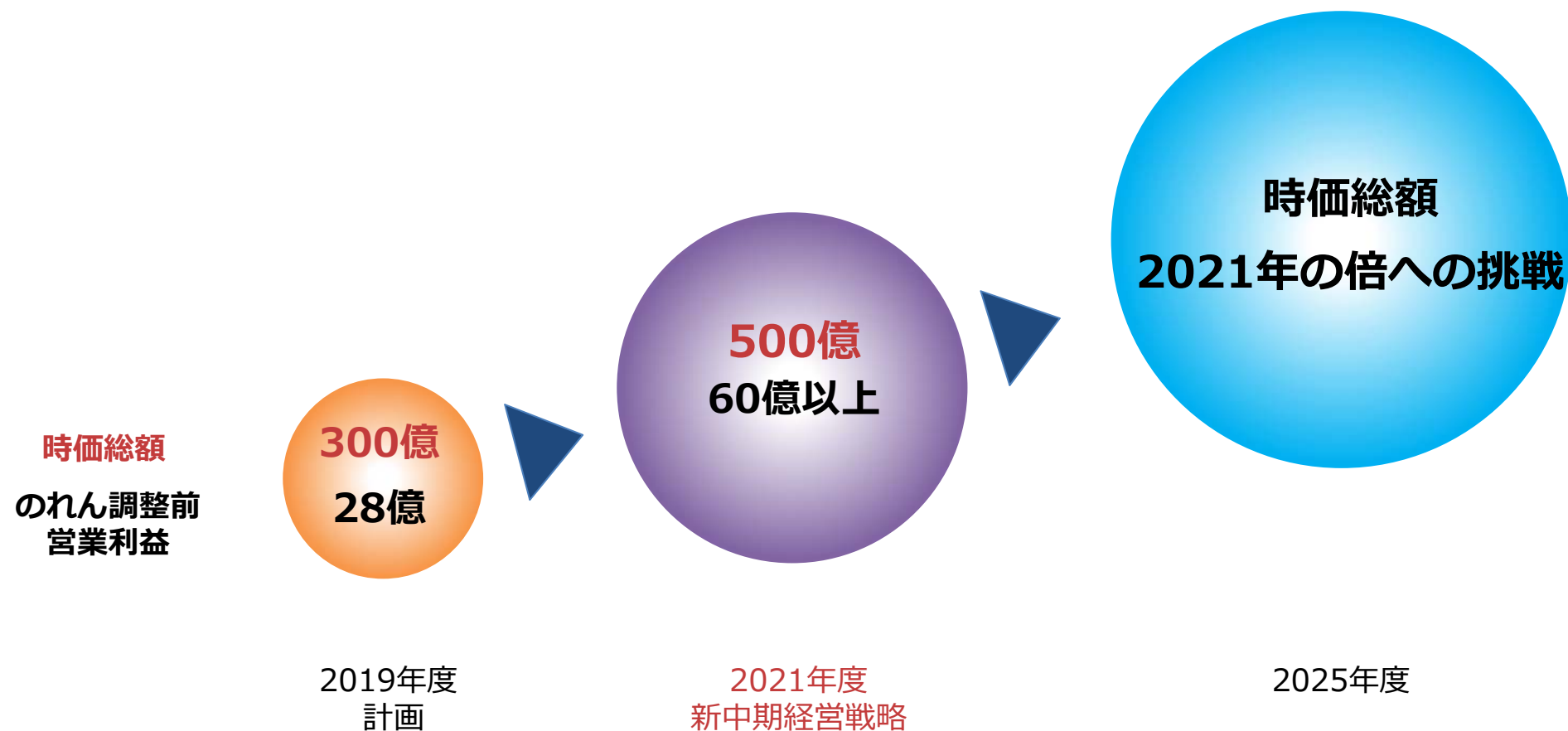
### 1. 資金使途と調達金額概算

資金使途	調達手取概算額	支出予定時期
M&A及び資本業務提携	6,128百万円	2019年8月 – 2022年3月

### 2. M&A、資本業務提携の目的

セグメント	目的
映像コンテンツ事業	映像表現を拡張する事業（映像空間クリエイティブ）の拡大
映像システム事業	光学計測やFA（生産工程自動化）分野でのソリューションビジネスの拡大
映像制作サービス事業	ポスプロ中心のビジネスからグローバルE2Eサービスへの転換

## 2021年度に時価総額500億円を目指す



# Appendix

# 連結損益計算書

(単位：百万円)	2018年度	2019年度		
	2Q実績	2Q実績	前年増減額	前年増減比
売上高	41,904	47,422	5,517	13.2%
売上総利益 (売上総利益率)	10,499 25.1%	11,357 23.9%	857	8.2%
営業利益 (営業利益率)	△ 710 -	275 0.6%	986	-
営業外収益	233	171	△ 61	-
営業外費用 *	171	639	467	272.4%
経常利益 (経常利益率)	△ 649 -	△ 192 -	456	-
特別利益	371	1,658	1,286	346.6%
特別損失	67	30	△ 37	△54.9%
税金等調整前当期純利益又は純損失	△ 346	1,435	1,781	-
親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失	△ 164	865	1,029	-

\*:2020.3期2Q 営業外費用 内訳 支払利息 169/持分法による投資損失 280/為替差損 106/ など

(参考)のれん等償却前営業利益	60	834	774	1290.0%
-----------------	----	-----	-----	---------

※のれん等償却前営業利益 = 営業利益 + のれん償却 + 商標権他無形固定資産償却



# セグメント別 実績総括

(単位：百万円)		2018年度	2019年度		
		2Q実績	2Q実績	前年比増減	前年比増減率
映像コンテンツ事業	売上高	<b>10,697</b>	<b>15,454</b>	4,756	44.5%
	営業利益	△ <b>329</b>	△ <b>26</b>	303	—
	(営業利益率)	—	—		
映像制作サービス事業	売上高	<b>13,266</b>	<b>12,676</b>	△ 590	△4.4%
	営業利益	△ <b>28</b>	△ <b>57</b>	△ 29	—
	(営業利益率)	—	—		
メディア・ローカライゼーション事業	売上高	<b>12,143</b>	<b>11,120</b>	△ 1,022	△8.4%
	営業利益	△ <b>828</b>	△ <b>692</b>	136	—
	(営業利益率)	—	—		
	のれん等償却前営業利益	△ <b>239</b>	△ <b>151</b>		
映像システム事業	売上高	<b>6,704</b>	<b>8,955</b>	2,250	33.6%
	営業利益	<b>671</b>	<b>1,250</b>	579	86.3%
	(営業利益率)	10.0%	14.0%		
その他（連結調整）	売上高	△ <b>906</b>	△ <b>783</b>	122	—
	営業利益	△ <b>195</b>	△ <b>198</b>	△ 3	—
連結合計	売上高	<b>41,904</b>	<b>47,422</b>	5,517	13.2%
	営業利益	△ <b>710</b>	<b>275</b>	986	—

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)		2018年度 (2019年3月31日)	2019年度 2Q (2019年9月30日)	前期比
資産の部	流動資産	<b>40,119</b>	<b>33,901</b>	△ 6,217
	うち現預金	6,079	5,278	△ 801
	固定資産	<b>24,606</b>	<b>25,353</b>	747
	うちのれん	3,769	3,377	△ 391
資産合計		<b>64,725</b>	<b>59,255</b>	△ 5,469
負債・純資産の部	流動負債	<b>26,712</b>	<b>23,336</b>	△ 3,376
	うち短期借入金	5,375	5,918	542
	固定負債	<b>10,115</b>	<b>8,274</b>	△ 1,840
	うち長期借入金	6,169	4,812	△ 1,357
	負債合計	<b>36,828</b>	<b>31,610</b>	△ 5,217
	株主資本	<b>24,857</b>	<b>25,508</b>	650
	その他包括利益累計額	292	△ 65	△ 357
	新株予約権	0	11	11
	非支配株主持分	2,747	2,189	△ 558
	純資産合計	<b>27,897</b>	<b>27,644</b>	△ 252
負債純資産合計	<b>64,725</b>	<b>59,255</b>	△ 5,469	
ネット資金 (現預金-長短期借入金)		△ 5,465	△ 5,452	13

# 連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)	2018年度 2Q	2019年度 2Q
税金等調整前当期純利益	△ 346	1,435
減価償却費	1,416	1,359
のれん償却費	463	291
売上債権の増減額	3,639	4,056
たな卸資産の増減額	△ 1,947	825
仕入債務の増減額	122	△ 1,154
法人税等の支払額	△ 566	△ 860
その他	158	△ 3,088
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,940</b>	<b>2,865</b>
短期貸付けによる支出	—	△ 1,650
短期貸付金の回収による収入	—	555
有形固定資産の売却による収入	2	2,673
関係会社株式の取得による支出	△ 69	△ 3,000
その他	△ 474	△ 1,118
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 541</b>	<b>△ 2,541</b>
短期借入金の純増減額	371	601
長期借入金の返済による支出	△ 1,244	△ 1,240
自己株式の取得による支出	△ 512	—
配当金の支払額	△ 445	△ 220
その他	△ 53	△ 158
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 1,883</b>	<b>△ 1,018</b>
現金および現金同等物の増減額 (△は減少)	<b>535</b>	<b>△ 800</b>
現金および現金同等物の四半期末残高	<b>11,667</b>	<b>5,266</b>

# 2019年 7月～ 主なグループTOPICS

2019/7  
IMAGICA Lab.

「日メコン交流年2019」記念事業（映画分野での交流・協力事業）に総合協力企業として参加。日シネマ最初の合作映画（1935年）のデジタル復元も



2019/8/5  
フォトロンM&Eソリューションズ

手術映像収録配信システム『Kada-OR』  
循環器内科向け映像収録配信システム『Kada-Live』  
新発売



2019/9/1  
IMAGICA GROUP

当社グループの企業経営と企業統治に関する基本姿勢を示した「コーポレートガバナンス・ガイドライン」を制定



2019/9/11  
フォトロン

国産2次元CADソフトウェアシリーズ最新版『図脳RAPIDPRO20』・『図脳RAPID20』新発売



2019/上期公開劇場映画 制作実績

- 『小さな恋のうた』 5/24～
- 『ウィーアー・リトルゾンビーズ』 6/14～
- 『MONGOL800 -message-』 7/5～
- 『ミュウツーの逆襲 EVOLUTION』 7/12～
- 『アルキメデスの大戦』 7/26～
- 『ドラゴンクエスト ユア・ストーリー』 8/2～
- 『二ノ国』 8/23～
- 『見えない目撃者』 9/20～
- 『任侠学園』 9/27～

2019/10  
ROBOT・P.I.C.S

地域カルチャーイベント「恵比寿文化祭 2019」の企画として恵比寿ガーデンプレイスでキッズ向けイベント開催



2019/10  
IMAGICA Lab.

第32回東京国際映画祭に協賛



# 2019年～6月 主なグループTOPICS

2019/4/1 IMAGICA Lab.	2019/4/1 IMAGICA GROUP	2019/4 フォトロン	2019/6 IMAGICA Lab.
-----------------------	------------------------	--------------	---------------------

グループ内ベンチャー制度第1号デジタル映像会社「IMAGICA IRIS」事業開始

米映像企業Pixelogic Holdings, LLCの増資引受により株式取得

自動車衝突安全試験用高速度カメラ『FASTCAM Mini CX100』を新発売

3Dホログラム生成技術の国内マーケティングでリアライズ・モバイル社と協業体制構築



2019/3/24 IMAGICA GROUP/ROBOT	2019/6 ROBOT	2019/6 IMAGICA Lab.
-------------------------------	--------------	---------------------

世界初：12 Kワイド映像と照明を同期した未来型ライブビューイングを実施  
最先端ライブスペクタクル  
「VISIONS SUPER LIVE VIEWING supported by LDH」

第72回 広告電通賞にて総合賞、最高賞などを受賞  
「おくる福島民報」スペシャルムービー

第23回 JPPA AWARDS 2019（日本ポストプロダクション協会）にて『日日は好日』が経済産業大臣賞 受賞



<b>メディア・ローカライズ</b>	作品の現地化のこと。映像素材を海外で配信するために、音声の翻訳・吹き替え・字幕付けや、フォーマット変換などを行うこと。また、現地の法令・慣習・文化に合うよう作品の一部を改訂したりする。
<b>プロダクション</b>	実際の映像制作。撮影をメインに、作品に係るCG（コンピュータ・グラフィクス）の作成や音楽、効果音づくりを行う段階のこと。
<b>ポストプロダクション (ポストプロ)</b>	撮影素材を作品の流れに沿って編集を行う、色調を調整する、CGとの合成や音声と合わせるなど、映像の制作工程で撮影終了時点から作品完成までの処理工程のこと。また専門にこれらを扱う部門や会社の総称。
<b>VFX</b>	Visual Effects（ビジュアル・エフェクツ）の略で、特撮を用いた映画やテレビドラマにおいて、現実には見ることでできない画面効果を実現するための技術のこと。視覚効果（しかくこうか）ともいう。撮影現場での効果をSFX（Special Effects, 特殊効果）と呼ぶのに対し、撮影後のポストプロダクション段階に付け加えられる効果をVFXと呼ぶ。
<b>アーカイブ</b>	フィルムやテープ等に保存された過去の貴重な映像・音声素材を、記録精度が高く映像再現性に優れたデジタル映像の形で保存・蓄積し、次世代に継承していくこと。
<b>OOH</b>	Out Of Homeの略で、自宅の外で接触するメディアの総称。電車やバスなどの車内・車体や駅構内、空港などを利用した「交通広告」と、建物の屋上、壁面を利用した看板やネオンサイン、道路沿いのビルボードなどの「屋外広告」が代表例
<b>OTT</b>	「Over The Top」の略称。動画や音声などのコンテンツを提供する、通信事業者以外の企業のこと。
<b>E2E（サービス）</b>	劇場映画作品などのオリジナル作品完成後に提供するローカライズ（字幕・吹替）とディストリビューション（公開／配信先に合わせたデータ作成、検査・発送業務）を統合したサービス

会社名	株式会社IMAGICA GROUP (東京証券取引所市場第一部 証券コード：6879)	
創業	1935年2月18日 (極東現像所として京都・太秦で創業)	
代表者	代表取締役会長 長瀬文男 / 代表取締役社長 布施信夫	
事業内容	映像コミュニケーショングループ	
連結売上高	902億12百万円 (2019年3月期)	
従業員数	4,082名 (2019年3月末) ※臨時雇用者を除く	
グループ会社	連結子会社：59社 (2019年3月末)	
単元株式数	100株	
主要株主と持株比率	株式会社クレアート	57.37 %
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	4.10 %
	株式会社三井住友銀行	2.82 %
	株式会社フジ・メディア・ホールディングス	1.92 %
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1.75 %
	2019年9月末現在 / 自己株式を除く	

(連結子会社)

映像コンテンツ事業	
ロボット オー・エル・エム ピクス	オー・エル・エム・デジタル オー・エル・エム ベンチャーズ Sprite Animation Studios
映像制作サービス事業	
IMAGICA Lab. イマジカ・ライヴ コスモ・スペース	イマジカデジタルスケープ ウェザーマップ イマジカアロベイス
メディア・ローカライゼーション事業	
SDI Media Group, Inc. (SDI Media Group 各社)	PPC Creative Limited
映像システム事業	
フォトロン フォトロン M&E ソリューションズ PHOTRON USA PHOTRON EUROPE	アイチップス・テクノロジー IPモーショント



# 沿革：「映像」の進展と事業領域拡大

1935 京都太秦で映画  
フィルムの現像所を  
創業



1992 フォトロンに資本参加

Photron

1942 商号変更 東洋現像所

1996 CSデジタル放送事業に参入



1951 東京・五反田工場  
(現 IMAGICA Lab.東京映像センター)  
操業開始



2006 ロボットと経営統合、  
ホールディングス体制に移行



1986 商号を IMAGICA に変更



2009 イマジカデジタルスケープ  
を買収





# お問い合わせ先

株式会社IMAGICA GROUP 企画部

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-3-2 内幸町東急ビル11階

T E L : 03-6741-5742      F A X : 03-6741-5752

Email : [ir@imagicagroup.co.jp](mailto:ir@imagicagroup.co.jp)

URL : <https://www.imagicagroup.co.jp/>

## 【将来予測について】

本資料に記載されている当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。